

2 Flagellata (鞭毛藻類)

- (1) *Tropidoscyphus octocostatus* STEIN
- (2) *Peroniella hyalothecae* GOBI
- (3) *P. minuta* RICH
- (4) *Botryococcus braunii* KUETZING
- (5) *Derepyxis amphora* STOKES
- (6) *Dinobryon sertularia* EHRENBERG
- (7) *Chrysoptyxis bipes* STEIN
- (8) *Lagynion macrotrachelum* (STOKES) PASCHER
- (9) *L. scherffelii* PASCHER
- (10) *Glenodinium palustre* (LEMMERMANN) SCHILLER

韓国淡水産アオノリ属の1種 *Enteromorpha flexuosa* subsp. *flexuosa* について

広瀬 弘 幸*・鄭 濬**

H. HIROSE and J. CHUNG : Notes on *Enteromorpha flexuosa* subsp. *flexuosa* found from Korea.

はじめに

陸水系に産するアオノリ属 *Enteromorpha* は大方の種が内陸中の鹹湖・半鹹湖に産して海産のものと同じ種が多く、純淡水産のものは少ない。日本産のものとしては遠藤吉三郎¹⁾(1909)により志摩国海岸近くの淡水の流れ中に産する *E. linza* (L.) J. AG. var. *crispata* J. AG. が、岡村金太郎²⁾(1902, 1916)により琉球産の *E. coerulea* HARV. が、岡田喜一³⁾(1939)により本州中部山間の溪流産としてカワアオノリの1変種として *E. intestinalis* (L.) GREV. var. が紹介されており、また山田幸男・広瀬弘幸⁴⁾(1943)

* 神戸大学理学部生物学教室

Department of Biology, Faculty of Science, Kobe University, Kobe, Japan.

** 慶北大学校文理科大学生物学教室

Department of Biology, College of Liberal arts and Sciences, Kyung Pook National University, Taegu, Korea.

The Bulletin of Japanese Society of Phycology, Vol. XVII, No. 1, 15—19, April 1969

は日光及び北千島占守島産のものをカワアオノリ *E. nana* SJOESTEDT var. *subsalsa* SJOESTEDT として報告したが、BLIDING⁵⁾ (1963) により本変種の学名は *Blidingia minima* (NAEGELI et KUETZING) KYLIN var. *ramifera* BLIDING と呼ばれることになった。従っていわゆる淡水産のアオノリという植物には従来からの *Enteromorpha* 属と *Blidingia* 属との2属になる。稿を進めるにあたり貴重な文献を貸与された新崎盛敏博士並びに有益なる助言を賜った C. BLIDING 博士に深甚なる感謝の意を表します。また採集その他に多大の貢献あった李照光氏の名を付記して感謝の意を表します。

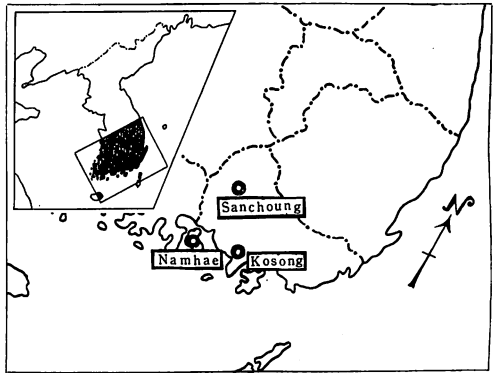


Fig. 1. Map of southern Korea, showing three localities where *Enteromorpha* plants were found.

韓国内の産地

只今までに判明した韓国淡水産アオノリ属の産地をあげると、次の通りである(第1図)。

産地名	水温	pH値	採集年月日
慶尚南道山淸郡生草面	25°C	7	1967. 8. 9
慶尚南道固城郡固城邑	25°C	7	1967. 8. 11
慶尚南道南海郡南海邑	25°C	7	1967. 8. 13

記載と考察

植物体は少しく扁平な長い筒をしており、表面には皺がなく体長は比較的短かく長いものでも約10cmを超えないし、体の巾は太い部分でも1mmを超えない。体は主軸と枝とよりなるが、枝分かれは再度分枝することは極めて稀である(第2図A, B)。また分枝はほとんど基部だけに限られ(第2図A, C)、他の部分では極めて稀である。枝はその発生点から先端近くまでほとんど同じ径であるが、先端近くでは次第に僅かずつ細くなる。枝の頂端から1個ないし数個細胞は1列のままに続くが、直ちに2ないし数列になる(第3図A, B)。

体の横断面における細胞の厚さは外壁及び内壁を含めて約16 μ あり、外壁と内壁の厚さはほぼ等しくそれぞれ約2 μ である(第3図E)。

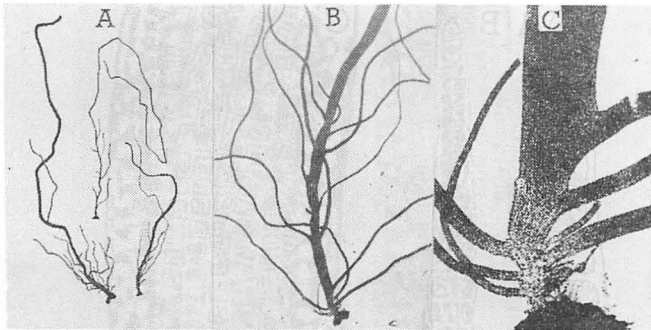


Fig. 2. *Enteromorpha flexuosa* subsp. *flexuosa*.
 A; whole length of plant bodies, \times ca. 1. B; lower half
 of a plant body, \times ca. 4. C; basal portion, \times ca. 20.

体の表面観における細胞の形はほぼ正方形または矩形，時として多角形を示しその配列（第3図C）は主軸においても枝においても煉瓦壁のように規則正しく明瞭に縦列をなして並んでおり最小径 8μ ，最大径は 27μ のものもあるが普通は 17μ ないし 20μ である。葉緑体は細胞内のほとんど全容積に拡がり，布状であり，pyrenoidsは普通1~2個，しばしば3個まれに4個存在する（第3図D）。

私どもは本植物の生殖細胞については何一つ資料を持っていないが，栄養体の形態学的諸形質を既知の同属のものと比較検討した結果 BLIDING⁵⁾ (1963) が新設した *E. flexuosa* (WULFEN ex ROTH) J. AG. subsp. *flexuosa* BLIDING にもっとも近く，ただ異なる点は基本種では pyrenoid の数が “mostly 1-2” とだけ記されているが，本種では体の部分によりしばしば3個みられ，稀に4個存することもある点だけであるので *E. flexuosa* (WULFEN ex ROTH) J. AG. subsp. *flexuosa* BLIDING と同定した次第である。

本種の分布

本種の分布は BLIDING⁵⁾ によれば，淡水産として Yugoslavia の Rovinj と Solin (Jadro 河) 及び Omis と Dubrovnik (Ombla 河) とあり，純淡水産から種々なる鹹度のところで生息し，海産の産地としては Sweden, Norway, Holland, Great Britain, France および Italy となっている。

Resumé

We have found fresh water *Enteromorpha* plants from three localities in Korea. These algae all belong to a same taxon. The alga was identified by us to be *Enteromorpha flexuosa* (WULFEN ex ROTH) J. AG. subsp. *flexuosa* BLIDING.

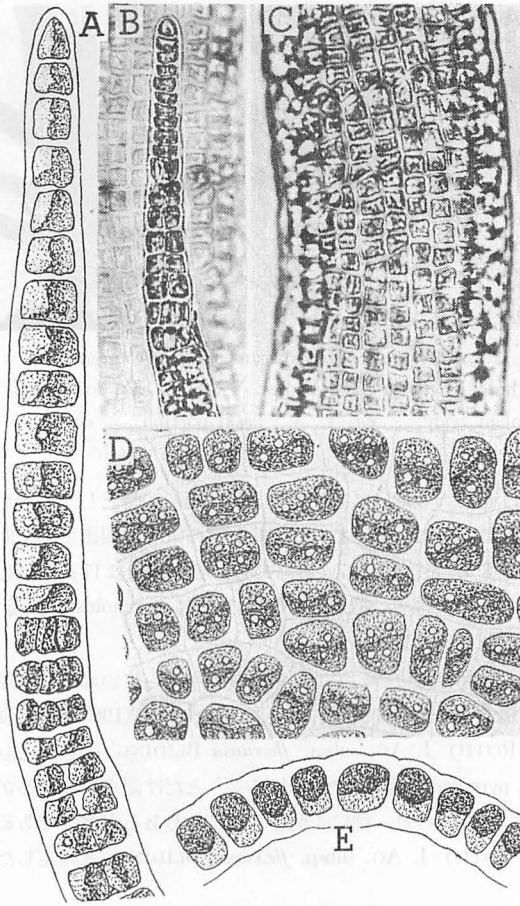


Fig. 3. *Enteromorpha flexuosa* subsp. *flexuosa*.

A, B; terminal portion of branch, A; $\times 800$, B; \times ca. 480. C; middle portion of a plant body, showing component cells which are regularly and longitudinally arranged, $\times 400$. D; surface view of component cells whose chloroplasts contain 2-4 pyrenoids, left is the side toward apex, $\times 800$. E; portion of transversally crossed body, $\times 800$.

文 献

- 1) 遠藤吉三郎 (1909) : Notes on algae new to Japan. 植物学雑誌 23 (270) : 119
- 2) 岡村金太郎 (1916) : 日本藻類名彙 : 230.

- 3) 岡田喜一 (1933) : 日本隠花植物図鑑 : 99, pl. 44, Fig. 1, 2.
- 4) 山田幸男・広瀬弘幸 (1943) : 日本淡水産あおのり属ノ一種かはあおのりニ就テ. 植物研究雑誌 19 (8) : 252-257.
- 5) BLIDING, C. (1963) : A critical survey of European taxa in Ulvales. 1. Opera Botanica a societate botanica Lundensi, 8 (3) : 73-79, figs. 38-41.

南西諸島産イワノカワ科 Squamariaceae の解剖分類学的研究 (2)

新産種サケメイワゲシヨウ *Cruoriella*
fissurata DAWSON について

野 沢 ユ リ 子*

Y. NOZAWA: Systematic anatomy of the Squamariaceae
in the southern islands of Japan (2)

Cruoriella fissurata DAWSON

和名： サケメイワゲシヨウ

本種は DAWSON¹⁾により 1953 年記載された種である。原標本の採集場所はメキシコ、カリフォルニア湾の中潮帯 (middle tidal zone) の岩礁であって、そのほかには採集の記録はない。本邦においては、筆者の研究により、種子島沖、馬毛島沖及び奄美大島附近の水深 20 ~ 30 m のところに比較的多く産する種であることが判明した。また原標本は雄性の nematocia のある葉体で、雌性体及び四分胞子体は知られていなかったのであるが、筆者は雌性及び四分胞子性の nematocia を有する個体をそれぞれ得て、その発達過程を観察することができた。本邦産のこの種を原標本と対比の上 *Cruoriella fissurata* であることを確認したので、サケメイワゲシヨウの和名を付して新産種として報告する。

葉体は殻状で、かるく石灰を被り、直径 2 ~ 4 cm の円形にひろがり、岩、石及びサンゴ礁上に着生する。地物の影響によっては不規則な形もとるが、重り合うことはない。縁辺は不規則な波状を呈し、やや自由で、乾燥すると軽く表面にむかってまくれてはがれ易い。色及び表面観は新鮮なときは鮮紅色でなめらかであるが、乾燥すると、紅紫色あるいは

*鹿兒島純心女子短期大学 Kagoshima Junshin Junior College.

The Bulletin of Japanese Society of Phycology, Vol. XVII, No. 1, 19-24, April 1969